

## 日本のオートルート

文責：上小牧憲寛

参加者：勅使河原暁、上小牧憲寛

期間：2009年4月30日～5月3日

概要：以前から室堂・上高地間、通称「日本のオートルート」を走破したいとの目標があったが、2005年に一度第一日目の五色ヶ原までで断念、敗退した情けない経験がある。今回は絶対走破する決意でリベンジした。気持ちだけでは成功しない。前回は全行程を幕営しようと思気込んだが、今回は軽量化のためテントを持たず代わりにビバークに備えツェルトを携帯し、毎日山小屋に宿泊した。事前に各山小屋の連絡先に電話し（山溪の山の便利帳2009に記載されている）、五色ヶ原山荘は素泊まり、太郎平小屋は食事付き、黒部五郎小屋と双六小屋は営業していないが10畳ほどの広さの非難小屋は使用可能であることを確認した。前二者はそれぞれ4月30日、5月1日に宿泊の予約をした。山小屋の現地電話番号、富山県、長野県、岐阜県各県警の電話番号を控えた計画書を携え、4月29日夜宇都宮を出発した。計画書のタイムテーブルは、夏道の標準時間を採用した。重い荷を背負っても、我々なら夏道標準時間で進めると判断したからだ。

4月30日7:30、朝一番のトロリーバスで扇沢を出発、平日のため空いており、黒部平から大観峰へのロープウェイも朝一番に乗ることが出来た。9:20室堂発。計画より1時間40分も早い。10:30には一の越（2700m）到着。遙か彼方に槍ヶ岳が見える。2500m地点まで滑り、龍王岳の岩場下をトラバースし、鬼岳との鞍部へ登った。シール登行したり、スキーを担いでアイゼン・ピッケルで登ったりと、条件がめまぐるしく変わるため、ザックにスキーを取り付けたりするのに時間がかかった。岩場でなければスキーは横にして雨蓋の下にはさむ方が、ザックの横に縦につけるより時間を稼げることが分かった。獅子岳（2741m）からザラ峠（2348m）まで急斜面を滑り降りた。テッシーのテレマークは非常に上手い。前回は革靴で苦労したが、今回はプラスチックの靴にしたのですばらしい滑りだ。ザラ峠手前から右へトラバースし、五色ヶ原へ登り返す。15時五色ヶ原山荘着。ビールを買って飲んだが、小屋の御主人が日本酒とさきいかをご馳走してくれた。19時前就寝。

5月1日3時起床、4時出発。鳶山山頂まではなだらかだが、そこからの下りは急でスキーを担いで降りた。急な岩場では面倒でもスキーを縦にして担がないと岩に当たって危険である。越中沢岳、スゴ乗越の上り下りは急で、下りでも滑ることは出来なかった。雪庇にも注意が必要である。6:30に越中沢岳を越えた後偽ピークをいくつも越え、ようやく13:30に北薬師岳に着いた。14:50に薬師岳到着。まだ剣、雄山が槍より近く思える。山頂からさらに少し歩いてからようやく滑ることが出来た。しかし狭い稜線の滑り出しで、かつシュカブラの雪面は非常に滑りにくく、自分は不覚にも何回も転倒し、重い荷を背負い

ながら起き上がるために体力を使い果たしたため、全く納得のいく滑りが出来なかった。対照的にテレマークのテッシーは華麗な滑りを見せていた。滑り終えてから太郎平小屋への登り返しは10分位と「スキーツアー入門とガイド」に書かれているが、30分もかかり、17:20にようやく到着した。太郎平小屋は盛況で、我々2人しか泊まらなかった五色ヶ原山荘がかわいそうに思えた。その夜テッシーとビールを飲みながら、豪華な晩飯を沢山食べた。これが翌日の活力につながった。19時就寝。

5月2日3時過ぎ起床。4時出発。だらだら登りをシール登行し、6:10北ノ俣岳着。そこから稜線東側を斜滑降で時間を稼ぎ、黒部五郎岳の急斜面をスキーアイゼンをつけて登行した。テッシーはテレマークのためスキーアイゼンなし。よく登れたものだ。先行していた単独テレマーカーは諦めてスキーを担いだのに。黒部五郎岳は山頂へは行かず、東北東への尾根の端っこまで歩いてから、カールへの急斜面を滑った。雪崩の跡があるがこの日は降雪後数日経っており、程よくくさっており快適な滑降が楽しめた。途中から右方向へトラバース気味に滑り9:45黒部五郎小屋に到着。シール登行で三俣蓮華岳を目指す。雪庇を避けながらいくつもピークを越えたが「三俣蓮華岳」という道標が出て来ない。途中稜線から左へはずれたトラバースの跡が見えたが、ガイドブックによればここは稜線通しに進む方が安全である。13時過ぎに着いたピークに「双六岳」という道標があった。三俣蓮華岳は知らぬ間に通り過ぎていたのだ。あんなに遠かった槍が間近に迫っている。だらつと伸びた稜線の左側を滑り、14時双六小屋到着。非難小屋に、最初は我々しかいなかったが、やがて3組のパーティーで埋まり、外にテントを張る登山者もいた。行動最終日の夜はアルファ米にレトルとうなぎを載せ豪快に食べた。19時就寝。

5月3日4時過ぎ起床、6時ハーネスをつけて出発。樫沢岳からの下りはナイフリッジで、左右どちらに落ちてもし助からない。しかしロープは出さなかった。その後西鎌尾根を槍を目指して進んだが、途中踏み跡が左右に分かれ、踏み跡の多い方は左に、少しだけ右の夏道沿いに進んでいる。自分は夏道沿いを選んで右へ進んだが、凍ったルンゼを登ることになった。ピッケルとアイゼンの前爪を刺してちょっとしたアイスクライミングになった。自分はどうということはないが、テッシーのテレマーク用シューズは前コバが異様に張り出しており、アイゼンの前爪は少ししか出ていない。テッシーはピッケルでステップを切って、そこに足先を載せて越えた。槍の肩への最後の登りは、2年前の夏にオートルートの下見をしたときより楽に登れた。あのときは2泊3日で横尾まで歩き、へとへとだったからいっそうばてた。12時槍ヶ岳山荘着。山荘でカップラーメンやおでんを食べ、いざ槍沢滑降。急斜面は凍っていたが、膝をしっかり曲げスキーがずれても体がスキーの真上に乗っているよう注意すれば大丈夫。黒部五郎カールのとき同様、気持ちよく滑ることが出来た。ババ平からは左岸の夏道沿いに進まないで後で徒渉を余儀なくされるので注意し

ていたが雪はかなり残っており、結局槍沢ロッジまで滑ることが出来た。そこでスキーを担ぎ、17:30 徳沢ロッジ着。ロッジで1月に赤岳鉱泉でお会いした山岳写真家の高橋良行さんとばったり出会った。山小屋泊まりをして楽しいのは、新しい友達が出来ることである。同じテーブルで話をしながらステーキを食べ、ビールと赤ワインを飲んだ。もう最高。反省点：今回は8mm x 30m ロープ1本、ハーネス、ヘルメットを持参したが、これらは不要である。ロープはせいぜい7mm x 10m 程度のお助けロープが良い。ハーネスは必要があればロング・スリングで簡易ハーネスを作れば良い。落石の危険はまずないのでヘルメットは不要である。以上のように軽量化を図り、シールやアイゼン着脱を敏速に行えば、2泊3日の行程に短縮することも可能である。今回は好天に恵まれ絶好のコンディションとなったが、日焼け止めの塗布が不十分、特に口唇用 UV カットを塗らなかったせいで、徳沢に着いたときは口唇が2倍の厚さに腫れ上がっていた。紫外線は年々強くなる傾向にあり、日焼け止めは必須である。

#### テッシーのとった記録

##### 4月30

日	7:30	扇沢 出発
	9:00	室堂 着
	9:20	室堂 出
	10:30	一の越
	10:50	一の越から滑降開始
	11:10	登り返し(御山谷⇒鬼岳)
	12:50	獅子岳
	13:40	ザラ峠
	15:00	五色が原山荘

##### 5月1日

	3:00	起床
	4:00	出発
	6:30	越中沢岳
	10:00	スゴ乗越
	11:20	スゴ乗越小屋と間山の間
	13:30	北薬師岳
	14:50	薬師岳
	17:20	太郎平小屋

5月2日	4:00	出発
	6:10	北ノ俣岳
	6:50	中俣乗越
	8:45	黒部五郎岳
	9:45	黒部五郎小屋
	10:10	出発
	14:00	双六小屋
5月3日	6:00	出発
	12:00	槍ヶ岳山荘到着
	17:30	徳沢ロッジ到着